

# ユーザーズガイド

本書では、Canon imageFORMULA DR シリーズスキャナー用 Wi-Fi ユニット WU10 のセットアップおよび操作方法について説明しています。本機を使用するときは、本機を接続するスキャナーの取扱説明書も併せてお読みください。

## 操作手順と画面例について

本書に記載されている操作手順は、Windows 7 および Mac OS 10.7(Lion) での操作を例にしています。また、Windows と Mac OS X で同等の画面例については、Windows 版の画面例のみを掲載しています。

## 商標について

- Canon、Canon ロゴは、キヤノン株式会社の商標です。
- imageFORMULA は、キヤノン電子株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標です。
- Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fi CERTIFIED ロゴおよび Wi-Fi Protected Setup ロゴは、Wi-Fi Alliance の登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2 と Wi-Fi Protected Setup は、Wi-Fi Alliance の商標です。
- 設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setup を意味しています。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

## 目次

安全上のご注意 .....	2
本製品について .....	4
セットアップ .....	6
Wi-Fi 接続について .....	9
AP モードで接続する .....	10
WPS 機能を利用して接続する .....	14
手動で設定して接続する .....	18
その他の操作 .....	24
設定 Web ページについて .....	27
トラブルシューティング .....	41
仕様 .....	42
ソフトウェアライセンス情報 .....	44
保証とアフターサービス .....	53
サービス&サポートのご案内 .....	54



# 安全上のご注意

---

## 電波法に関する記載

本機は日本国内仕様です。日本国外では使用できません。  
日本国外では、その国や地域の法律または規制により、本機を使用した結果罰せられることがあります。その場合、当社としては責任を負いかねますのでご了承ください。

本機は電波法に基づく技術基準適合認証を受けた無線設備であり、筐体内部をあけること、及び内部回路を改造することは法律で禁じられています。

## 無線通信機能について

本機には無線通信機能が内蔵されています。無線通信機能で使用する電波により医療機器や各機器に影響を及ぼし重大な事故の原因となる恐れがあります。以下の場所では無線通信機能を使用しないでください。

- 心臓ペースメーカーをお使いの方は、無線通信機能を使用しないでください。無線通信に使用する電波が心臓ペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。
- 心臓ペースメーカー等の医療機器を使用されている人の近くでは無線通信機能を使用しないでください。無線通信に使用する電波が心臓ペースメーカー等の動作に影響を与える恐れがあります。ご利用に関しては各医療機関へお問い合わせください。
- 病院などの医療機関内や医療用電気機器の近くでは無線通信機能を使用しないでください。無線通信に使用する電波が医療用電気機器の動作に影響を与える恐れがあります。医療機関内でのご使用に関しては各医療機関へお問い合わせください。
- 航空機内では無線通信機能を使用しないでください。無線通信に使用する電波が航空機内の精密機器へ影響を及ぼし、誤動作による重大事故の原因となる恐れがあります。
- 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは無線通信機能を使用しないでください。無線通信に使用する電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となる恐れがあります。
- 無線通信機能を使用するときは、本機を身体から 20cm 以上離してください。

## 電波に関する記載

本機の使用周波数帯は 2.4 GHz 帯 (2.400 GHz ~ 2.4835 GHz) です。この周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器や、ほかの同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「ほかの無線局」と略す）が運用されています。下記の点に注意してご使用ください。

1. 本機を使用する前に、近くで「ほかの無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「ほかの無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。  
停止後、お買い上げの販売店または弊社担当営業までご連絡を頂き、混信回避のための処置等（例：パーティションの設置等）についてご相談ください。
3. その他、この機器から「ほかの無線局」に対して電波干渉の事例が発生した場合など、お困りの事態が発生したときには、お買い上げの販売店または弊社担当営業までご相談ください。

## バッテリーについて

別売りのバッテリーパック LP-E10 を使用する場合の取り扱いについては、『バッテリーパック LP-E10 使用説明書』を参照してください。

## 使用可能な地域と制限事項

世界各地域の無線に関する法律に準拠するため、3種類の本製品が販売されています。製品ごとの使用可能地域は下記のとおりです。使用可能地域以外での使用はできませんので、ご注意ください。また、下記に記載されていない地域については、お客様相談窓口にお問い合わせください。

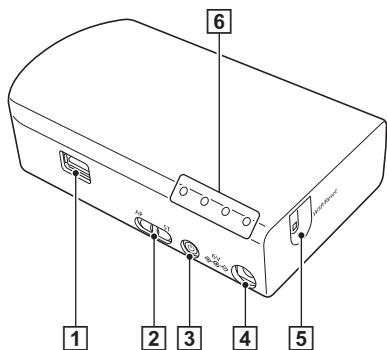
製品名称	商品コード	使用可能地域	無線 LAN 規格	対応チャンネル
WU10 JP	6910B001	日本	IEEE 802.11b/g/n	2.412~2.472 GHz、 1 ~ 13 ch
WU10 USA	6910B002	アメリカ合衆国、カナダ		2.412~2.462 GHz、 1 ~ 11 ch
WU10 OTHERS	6910B003	オーストリア、ベルギー、ブルガリア、キプロス、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア*、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、イギリス、アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイス、トルコ		2.412~2.472 GHz、 1 ~ 13 ch

\* イタリアでは屋外での使用は禁止されています。

# 本製品について

本機は、無線 LAN 機能を備えたコンピューターとスキャナーを Wi-Fi で接続するためのワイヤレスユニットです。IEEE 802.11b/g/n (周波数 2.4GHz) に対応した Wi-Fi 機能を内蔵しており、スキャナーと USB ケーブルで接続することで、ワイヤレスでコンピューターからスキャンできるようになります。無線親機 (アクセスポイント) が設置されているネットワーク環境では、本機を無線親機 (アクセスポイント) に接続することで、同じネットワーク内のコンピューターで本機を使用できます。無線親機 (アクセスポイント) が WPS (Wi-Fi Protected Setup) に対応している場合は、簡単に本機を接続できます。

## 各部の名称



### 1 USB コネクター

スキャナーに付属の USB ケーブルで、スキャナーと本機を接続します。

### 2 モードスイッチ

本機のネットワークモードを切り替えます。

スイッチの位置	説明
AP	AP モードに切り替えます。本機が接続されたスキャナーとコンピューターを 1 対 1 で接続するときに使用します。
ST	ステーションモードに切り替えます。本機を無線親機 (アクセスポイント) に接続するときに使用します。

### 💡 ヒント

ネットワークモードの切り替えは、電源を入れる前に行う必要があります。電源が入っているときにモードスイッチの位置を変更しても、電源を入れ直すまではネットワークモードは切り替わりません。

### 3 電源ボタン

本機の電源を入れます。電源ランプが青色に点灯し、本機と USB ケーブルで接続されているスキャナーの電源も入ります。本機の電源が入っているときに長押しすると、電源ランプが消灯し、本機の電源が切れます。本機に接続されているスキャナーの電源も切れます。

### 4 電源コネクター

同梱されている AC アダプターを接続します。



### 5 WPS/RESET ボタン

WPS 対応の無線親機 (アクセスポイント) と接続するとき、または本機を初期化するときに押します。このボタンを押しながら本機の電源を入れると、本機を工場出荷時の設定に戻すことができます。

### 6 ランプ

本機の状態を示す下記のランプがあります。

ランプ	意味	
STATUS	点滅 (緑)	データ通信中
CONNECTION	点灯 (緑)	AP モード* : 無線 LAN 動作中 ステーションモード* : 無線親機 (アクセスポイント) に接続中
	点灯 (赤)	設定初期化中
	点滅 (緑)	WPS 実行中
	点滅 (赤)	WPS エラー
	点滅 (橙)	(ステーションモードのみ) 無線親機 (アクセスポイント) を検索中
	消灯	無線 LAN 停止中

 (バッテリーランプ)	点灯 (緑)	電池残量大
	点灯 (橙)	電池残量小
	点灯 (赤)	充電異常
	点滅 (緑)	充電中 (電池残量大)
	点滅 (赤)	充電中 (電池残量小)
 (電源ランプ)	点灯 (青)	電源オン
	消灯	電源オフ

\* 本機のネットワークモードのひとつです。Wi-Fi 機能を利用して接続するデバイスに応じて切り替えます。詳細は P.9 を参照してください。

# セットアップ

## ソフトウェアのインストール

本機の Wi-Fi 機能を使用するには、同梱のセットアップディスクから、スキャナー無線接続ユーティリティをコンピューターにインストールする必要があります。

### 動作環境

対応 OS : Windows XP Professional (32 ビット /64 ビット)  
Windows XP Home Edition (32 ビット)  
Windows Vista (32 ビット /64 ビット)  
Windows 7 (32 ビット /64 ビット)  
Mac OS X 10.5 ~ 10.7  
対応無線規格 : IEEE802.11b/g/n

### 対応スキャナー

本機は下記の対応スキャナーで動作します (2012 年 10 月現在)。

スキャナー	ファームウェアのバージョン
DR-150	2.05 以降
DR-150M	2.04 以降
DR-P215	1.10 以降

スキャナーのファームウェアが上記のバージョン以前の場合は、アップデートが必要です。最新のファームウェアの入手方法や最新の対応機種情報はサポートページでご確認ください。

スマートデバイス (スマートフォン、タブレットデバイスなど) で本機を使用するには、CaptureOnTouch Mobile が必要です。入手方法および使用方法についてはサポートページを参照してください。

<http://cweb.canon.jp/manual/dr/index.html>

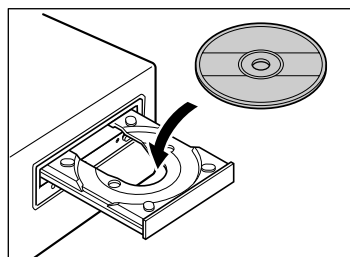
## Windows でのインストール

### ❗ 重要

- Administrator 権限を持つアカウントでログオンしてください。
- ほかのアプリケーションをすべて終了させてからソフトウェアをインストールしてください。

### 1 ソフトウェアセットアップディスクをコンピューターの CD ドライブにセットします。

自動的にセットアップメニューが起動します (起動しないときは、ディスク内の Setup.exe を実行してください)。



### Windows 7/Vista をお使いの場合

[ユーザーアカウント制御] 画面が表示されたら、[はい] または [許可] をクリックしてください。



## 2 【おまかせインストール】 をクリックします。



## 3 【インストール】 をクリックします。



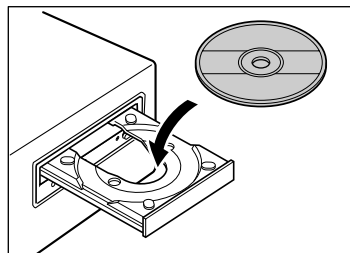
## 4 画面の指示に従ってインストールを完了させます。

## Mac OS X でのインストール

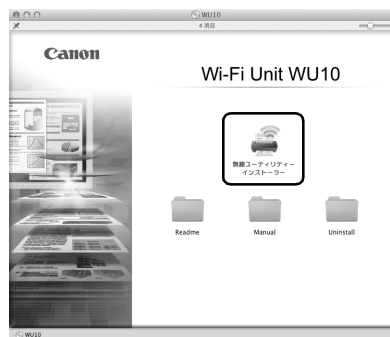
### ❗ 重要

- Administrator 権限を持つアカウントでログインしてください。
- ほかのアプリケーションをすべて終了させてからソフトウェアをインストールしてください。

## 1 ソフトウェアセットアップディスクをコンピューターの CD ドライブにセットします。



## 2 【無線ユーティリティインストーラー】 をダブルクリックします。

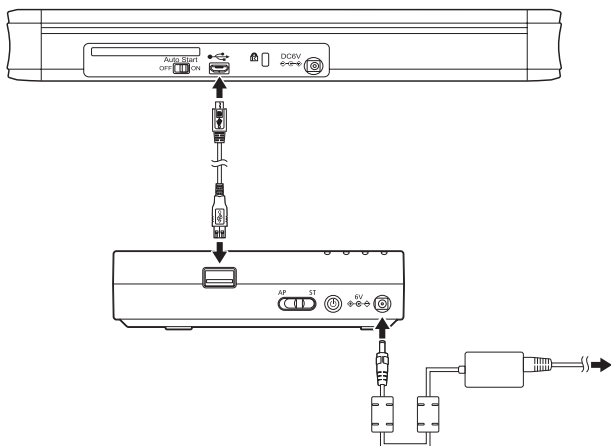


## 3 画面の指示に従ってソフトウェアのインストールを完了させます。

## スキャナーに接続する

スキャナーに付属の USB ケーブルを使用して、本機とスキャナーを接続します。

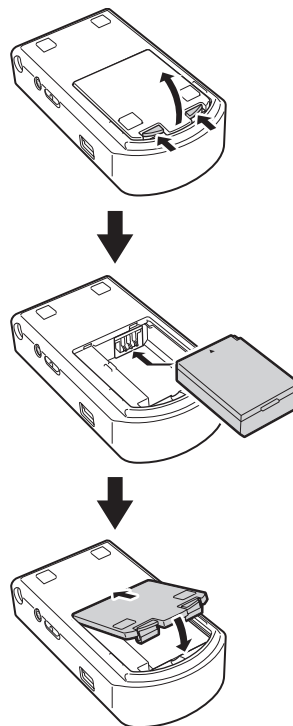
また、本機に同梱されている AC アダプターを使用して本機をコンセントに接続します。




## バッテリーを使用するときは

別売りのバッテリーパックを使用することで、コンセントが近くないところでも本機とスキャナーを設置できます。

バッテリーを入れるには



## バッテリーの充電について

本機を AC アダプターを使用してコンセントに接続すると、充電が開始します。充電中は  (バッテリー) ランプが赤または緑色で点滅します。ランプが消灯したら充電完了です。充電完了時間は、常温環境下で 2.5 時間です。



# Wi-Fi 接続について

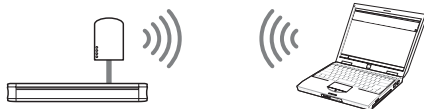
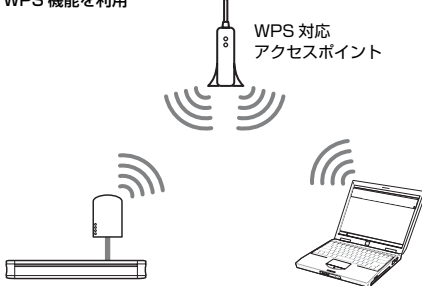
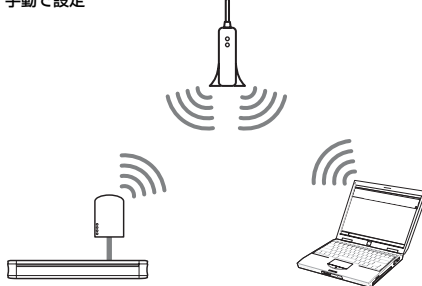
使用しているネットワーク環境に応じて、本機を無線親機（アクセスポイント）またはコンピューターに接続します。

## ネットワークモードについて

Wi-Fi 機能を利用して本機と接続するデバイスに応じて、本機のネットワークモードを次のどちらかに切り替えます。

ネットワークモード	説明
AP モード	無線親機（アクセスポイント）がなくても単独で動作するモードです。コンピューターと 1 対 1 で接続できます。
ステーションモード	無線子機として動作するモードです。このモードでは、別の無線親機（アクセスポイント）を介して本機とコンピューターを接続します。

## 接続方法

1 対 1 で接続する（AP モードで接続）	無線親機（アクセスポイント）に接続する（ステーションモードで接続）	
 <p>コンピューターやスマートデバイスから本機を検索して接続します。</p> <p>→ 「AP モードで接続する」 (P.10)</p>	<p>無線機能を利用</p> <p>WPS 対応 アクセスポイント</p>  <p>無線親機（アクセスポイント）が WPS に対応しているときは、WPS 機能を利用して本機を接続できます。</p> <p>→ 「WPS 機能を利用して接続する」 (P.14)</p>	<p>手動で設定</p>  <p>無線親機（アクセスポイント）が WPS に対応していないときは、ネットワーク環境に合わせて本機を手動で設定します。</p> <p>→ 「手動で設定して接続する」 (P.18)</p>

### ❗ 重要

- 無線親機（アクセスポイント）経由で同一ネットワーク上の複数のコンピューターで本機を共有できますが、一度に本機と接続できるコンピューターは 1 台までです。
- Wi-Fi 機能による接続では、USB コネクターによる接続に比べてスキャン速度が低下します。
- 「かんたん無線スタート」および「AOSS」には対応していません。  
(かんたん無線スタートは、NEC アクセステクニカ株式会社の登録商標です。AOSS は、株式会社バッファローの商標です。)

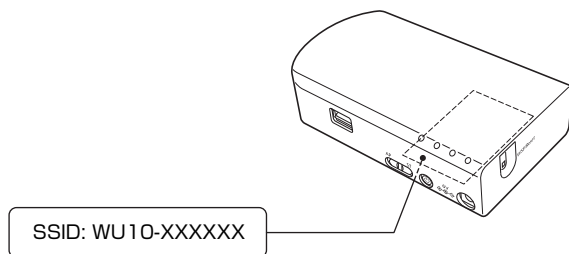
## AP モードで接続する

---

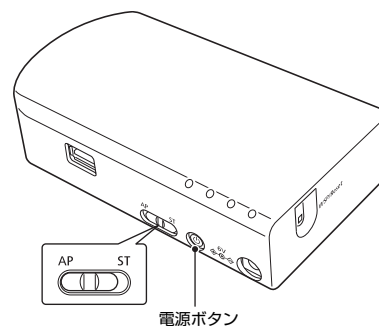
無線 LAN を搭載したコンピューターと 1 対 1 で本機を接続するときは、本機のネットワークモードを AP モードにします。次の手順でコンピューターから本機に接続できます。

### 1 本機の SSID を確認します。

SSID は、本機の底面のラベルに記載されています。



### 2 モードスイッチを「AP」側にスライドさせてから、電源ボタンを押して本機の電源を入れます。



### 3 コンピューターの無線 LAN 機能をオンにします。

無線 LAN 機能がすでにオンになっているときは、この手順は不要です。→ 手順 4 に進む

#### Windows

- ① スタートボタン－【コントロールパネル】－【ネットワークの状態とタスクの表示】の順にクリックします。




- ② 【アダプターの設定の変更】をクリックします。



- ③ 【ワイヤレスネットワーク接続】アイコンが【無効】になっているときは、アイコンをダブルクリックします。



- ④  をクリックして設定画面を閉じます。

#### Mac OS X

- ① アップルメニューの【システム環境設定】－【ネットワーク】をクリックします。




- ② 【Wi-Fi】をクリックし、【Wi-Fi を入にする】ボタンをクリックします。

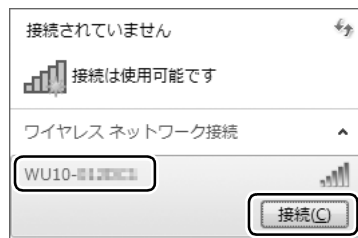


- ③  をクリックして設定画面を閉じます。

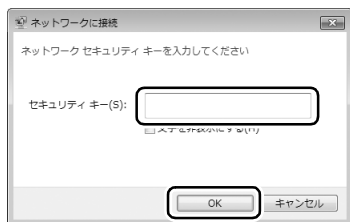
## 4 ワイヤレスネットワークの検索を開始し、本機と Wi-Fi で接続します。

### Windows


- ① タスクバーの  アイコンをクリックして、利用可能なワイヤレスネットワークを一覧表示します。
- ② 手順 1 で確認した SSID を一覧で選択し、[接続] をクリックします。



- ③ セキュリティキー「canonwu10」を入力してから、[OK] をクリックします。

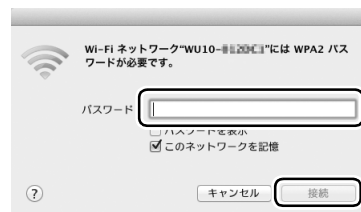


### Mac OS X

- ①  をクリックし、手順 1 で確認した SSID を一覧で選択します。



- ② パスワード「canonwu10」を入力し、[接続] をクリックします。



## 5 スキャナー無線接続ユーティリティを起動します。


タスクバーまたは Dock の  アイコンをクリックします。

### ! 重要

コンピューターにスキャナー無線接続ユーティリティがインストールされていない場合は、P.6 を参照してインストールしてください。

### Windows



 アイコンがタスクバーまたは Dock に表示されていないときは

Windows の場合：

スタートボタン - [すべてのプログラム] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] の順にクリック


### Mac OS X

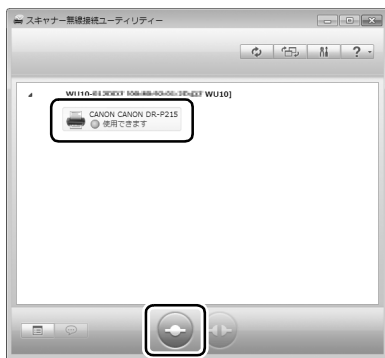


Mac OS X の場合：

システムドライブ ([Macintosh HD] など) - [アプリケーション] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] をダブルクリック


## 6 正常に本機とコンピューターが接続できるかどうかを確認します。

一覧に表示されている本機のデバイス欄をクリックしてから、 をクリックします。



正常に接続されると、一覧の本機のデバイス欄に「あなたが使用中です」と表示されます。

他のコンピューターやスマートデバイスで本機を使用するときは

① スキャナー無線接続ユーティリティで、本機のデバイス欄をクリックしてから、 をクリックします。



これで設定は終了です。

② 手順 3 ~ 6 に従って、使用するコンピューターやスマートデバイスで本機に接続し直します。

## WPS 機能を利用して接続する

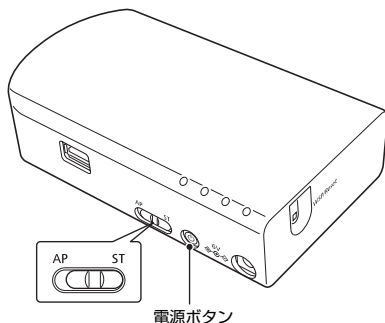
---

WPS に対応した無線親機（アクセスポイント）がある環境では、その無線親機（アクセスポイント）経由で本機をコンピューターに接続できます。

### **⚠** 注意

- WPS に対応した無線親機（アクセスポイント）でも、設定で WPS が無効になっていることがあります。あらかじめ WPS 機能を有効にしてください。
- 無線親機（アクセスポイント）のセキュリティ設定（MAC アドレスフィルタリングなど）を使用している場合は、本機との接続ができるように設定を変更してください。
- 確実に Wi-Fi で通信できるように、本機と無線親機（アクセスポイント）を近くに置いて、この操作を行ってください。

- 1** モードスイッチを「ST」側にスライドさせてから、電源ボタンを押して本機の電源を入れます。



## 2 コンピューターの無線 LAN 機能をオンにします。

無線 LAN 機能がすでにオンになっているときは、この手順は不要です。→ 手順 3 に進む

### Windows

- ① スタートボタン－【コントロールパネル】－【ネットワークの状態とタスクの表示】の順にクリックします。




- ② 【アダプターの設定の変更】をクリックします。



- ③ 【ワイヤレスネットワーク接続】アイコンが【無効】になっているときは、アイコンをダブルクリックします。



- ④  をクリックして設定画面を閉じます。

### Mac OS X

- ① アップルメニューの【システム環境設定】－【ネットワーク】をクリックします。



- ② 【Wi-Fi】をクリックし、【Wi-Fi を入にする】ボタンをクリックします。



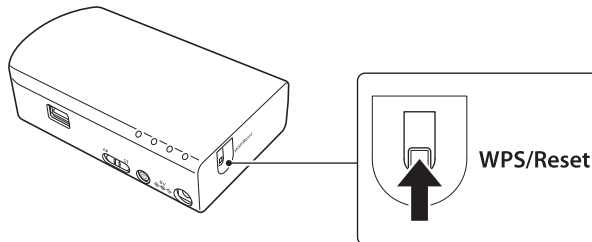
- ③  をクリックして設定画面を閉じます。

- 3** 無線親機(アクセスポイント)のWPSボタンを押して、接続待機状態にします。
- 4** WPS/RESET ボタンを、CONNECTION ランプが緑色に点滅するまで(約3～10秒)押し続けます。

無線親機(アクセスポイント)の取扱説明書もあわせて参照してください。

**!** 重要

同時に複数の無線親機(アクセスポイント)を接続待機状態にすると、本機との接続ができません。



接続待機中の無線親機(アクセスポイント)との通信が開始し、Wi-Fi 接続に必要な設定が自動的に行われます。設定が完了すると、CONNECTION ランプが緑色に点灯します。

**!** 重要


- 設定完了までには時間がかかることがあります。
- CONNECTION ランプが赤色に点滅したときは、もう一度手順3からやり直してください。

**5** スキャナー無線接続ユーティリティを起動します。

タスクバーまたはDockの  アイコンをクリックします。

**Windows**



 アイコンがタスクバーまたは Dock に表示されていないときは

Windows の場合：

スタートボタン - [すべてのプログラム] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] の順にクリック

**Mac OS X**




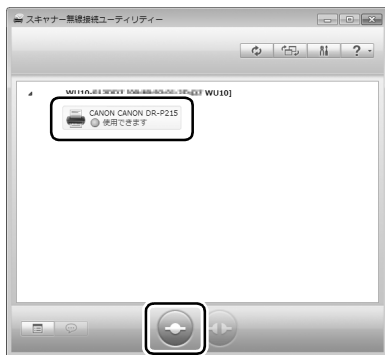
Mac OS X の場合：

システムドライブ ([Macintosh HD] など) - [アプリケーション] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] をダブルクリック



## 6 正常に本機とコンピューターが接続できるかどうかを確認します。

一覧に表示されている本機のデバイス欄をクリックしてから、 をクリックします。



正常に接続されると、一覧の本機のデバイス欄に「あなたが使用中です」と表示されます。

これで設定は終了です。

## 手動で設定して接続する

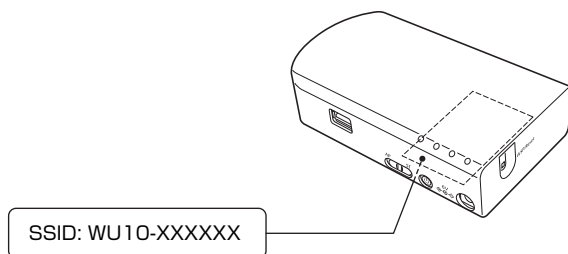
WPS に対応していない無線親機（アクセスポイント）経由で本機をコンピューターに接続するには、本機のネットワークモードを AP モードに切り替えてから、使用中のネットワーク環境に合わせて本機のネットワーク設定を行います。

### **⚠** 注意

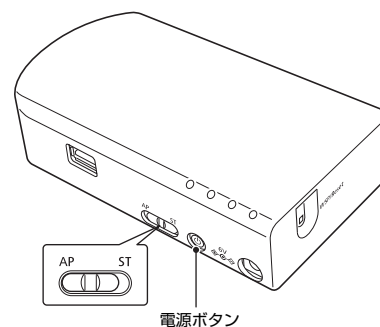
- 無線親機（アクセスポイント）のセキュリティ設定（MAC アドレスフィルタリングなど）を使用している場合は、本機との接続ができるように設定を変更してください。
- 確実に Wi-Fi で通信できるように、本機と無線親機（アクセスポイント）を近くに置いて、この操作を行ってください。

### **1** 本機の SSID を確認します。

SSID は、本機の底面のラベルに記載されています。



### **2** モードスイッチを「AP」側にスライドさせてから、電源ボタンを押して本機の電源を入れます。



### 3 コンピューターの無線 LAN 機能をオンにします。

無線 LAN 機能がすでにオンになっているときは、この手順は不要です。→ 手順 4 に進む

#### Windows

- ① スタートボタン－【コントロールパネル】－【ネットワークの状態とタスクの表示】の順にクリックします。



- ② 【アダプターの設定の変更】をクリックします。



- ③ 【ワイヤレスネットワーク接続】アイコンが【無効】になっているときは、アイコンをダブルクリックします。



- ④  をクリックして設定画面を閉じます。

#### Mac OS X

- ① アップルメニューの【システム環境設定】－【ネットワーク】をクリックします。




- ② 【Wi-Fi】をクリックし、【Wi-Fi を入にする】ボタンをクリックします。

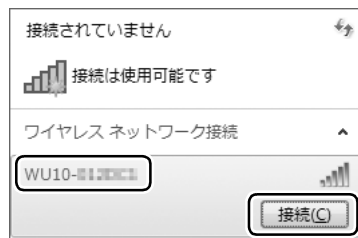


- ③  をクリックして設定画面を閉じます。

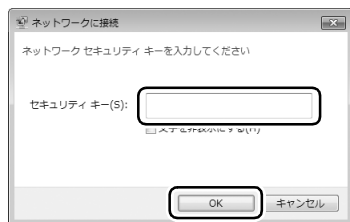
## 4 ワイヤレスネットワークの検索を開始し、本機と Wi-Fi で接続します。

### Windows


- ① タスクバーの  アイコンをクリックして、利用可能なワイヤレスネットワークを一覧表示します。
- ② 手順 1 で確認した SSID を一覧で選択し、[接続] をクリックします。



- ③ セキュリティキー「canonwu10」を入力してから、[OK] をクリックします。

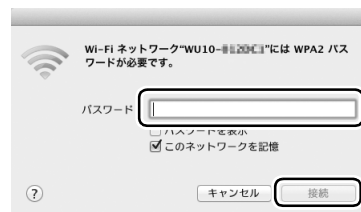


### Mac OS X

- ①  をクリックし、手順 1 で確認した SSID を一覧で選択します。



- ② パスワード「canonwu10」を入力し、[接続] をクリックします。



## 5 スキャナー無線接続ユーティリティを起動します。

タスクバーまたは Dock の  アイコンをクリックします。

### 重要

コンピューターにスキャナー無線接続ユーティリティがインストールされていない場合は、P.6 を参照してインストールしてください。

### Windows



### Mac OS X



 アイコンがタスクバーまたは Dock に表示されていないときは

Windows の場合：

スタートボタン - [すべてのプログラム] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] の順にクリック

Mac OS X の場合：

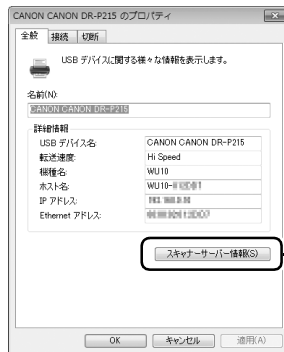
システムドライブ ([Macintosh HD] など) - [アプリケーション] - [スキャナー無線接続ユーティリティ] をダブルクリック

## 6 本機の設定 Web ページを開きます。

① 本機のアイコン、 の順にクリックします。



② [スキャナーサーバー情報] をクリックします。



設定 Web ページが表示されます。



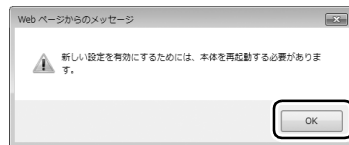
## 7 本機の設定 Web ページで、設定をします。

### ① 無線 LAN 設定



- ① [ステーション設定] の [無線 LAN] をクリックします。
- ② ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。  
ユーザー名：root  
パスワード：(なし)
- ③ [無線 LAN 設定リスト] で [2.] から [5.] のいずれかを選択します。
- ④ 使用している無線親機（アクセスポイント）の設定に合わせて、下記の項目を設定します。  
SSID：無線親機（アクセスポイント）の SSID を入力します。  
ネットワーク認証：使用している無線親機（アクセスポイント）に設定されている認証方式（Open、Shared、WPA2 など）を選択します。認証方式によっては、暗号化キーの入力が必要です。
- ⑤ [設定更新] をクリックします。


下記の画面が表示されたら  
[OK] をクリックしてください。

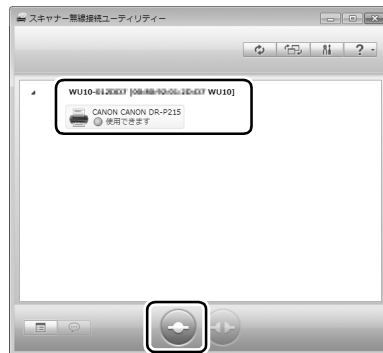
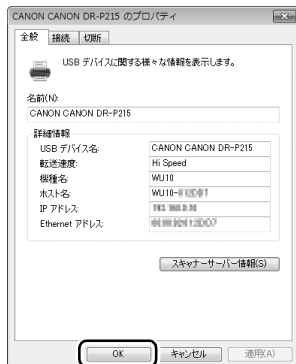


### ②再起動

- ⑥ Web ブラウザーを閉じます。
- ⑦ コンピューターが無線親機（アクセスポイント）に接続されていることを確認します。
- ⑧ 本機の電源ボタンを押していったん電源を切ります。
- ⑨ モードスイッチを「ST」側にスライドさせてから、電源ボタンを押して本機の電源を入れます。
- ⑩ CONNECTION ランプが緑色に点灯していることを確認して次の手順に進みます。

## 8 スキャナー無線接続ユーティリティーで、正常に本機とコンピューターが接続できるかどうかを確認します。

- ① 手順6で本機のプロパティ画面を表示していると ② 一覧に表示されている本機のデバイス欄をクリックしてから、 をクリックします。  
きは、[OK] をクリックして閉じます。



正常に接続されると、一覧の本機のデバイス欄に「あなたが使用中です」と表示されます。


正常に接続できないときは手順 1 から設定し直してください。

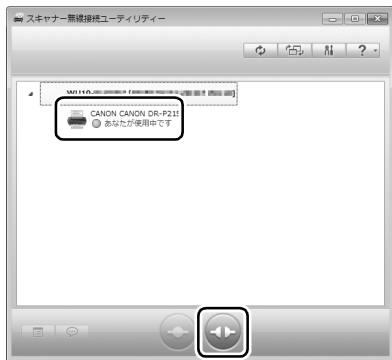
これで設定は終了です。

## その他の操作

ここでは、スキャナー無線接続ユーティリティのさまざまな操作方法について説明します。

### スキャナーとの接続を切断する


本機を使用しないときや、同じワイヤレスネットワークに接続する他のコンピューターで本機を使用するときは、本機との接続を切断します。メイン画面の一覧に表示されている本機のデバイス欄をクリックしてから、をクリックします。



一覧の本機のデバイス欄に「使用できます」と表示されたら、本機との接続の切断が完了です。

### 切断要求を送信する

他のコンピューターがすでに本機との接続をしている場合、そのコンピューターでスキャナーとの接続を切断しない限り、自分のコンピューターでは本機との接続ができません。この場合に、本機を使用中のコンピューターに対して切断要求を送信できます。

メイン画面の一覧に表示されている本機のデバイス欄をクリックしてから、をクリックします。



送信先のコンピューターで接続が切断されると、一覧の本機のデバイス欄に「使用できます」と表示され、自分のコンピューターで本機に接続できます。

### ヒント

逆に切断要求を受信したときは、下記の画面が表示されます。[[はい]] をクリックすると、接続が切断されます。






## 本機のプロパティ画面での設定

スキャナー無線接続ユーティリティでは、接続した本機に対する下記の動作設定をすることができます。

### 本機のプロパティ画面を開く

スキャナーのプロパティ画面を開くには、メイン画面の一覧に表示されている本機のデバイス欄をクリックしてから、 をクリックします。



## プロパティ画面の設定項目

プロパティ画面は 3 つのタブで構成されています。

### [全般] タブ

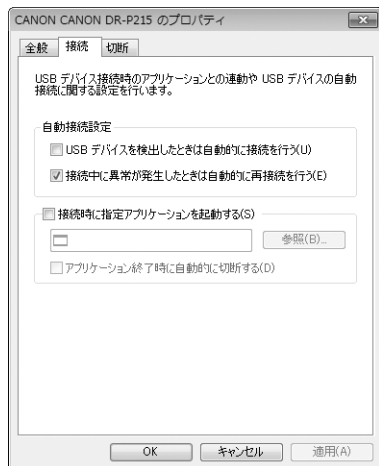


本機の情報が表示されます。

このタブで、次の操作ができます。

- [名前] ボックスに表示されている本機の名前を変更できます。変更した名前は、スキャナー無線接続ユーティリティの一覧に表示されます。
- [スキャナーサーバー情報] ボタンをクリックすると、本機の設定ページを表示できます。

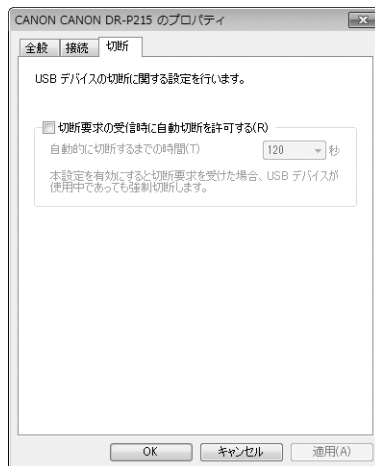
## 【接続】 タブ



本機とコンピューターの接続に関する設定ができます。

- 【自動接続設定】の【USB デバイスを検出したときは自動的に接続を行う】をオンにすると、本機とコンピューターが Wi-Fi で接続されたときに、自動的に仮想 USB 接続も行われます。
- 【自動接続設定】の【接続中に異常が発生したときは自動的に再接続を行う】は、通常はオンのままにします。
- 接続時に自動的に起動するアプリケーションを指定できます。この場合は【接続時に指定アプリケーションを起動する】をオンにします。【参照】ボタンをクリックし、表示される画面でアプリケーションの実行ファイルを指定して【開く】ボタンをクリックしてください。【アプリケーション終了時に自動的に切断する】をオンにすると、指定したアプリケーションを終了させたときに、本機との接続も切断されます。

## 【切断】 タブ



切断要求を受信したときの動作を設定できます。

【切断要求の受信時に自動切断を許可する】をオンにすると、本機と接続中に他のコンピューターからの切断要求を受信すると自動的に本機との仮想 USB 接続が切断されます。【自動的に切断するまでの時間】で、切断要求を受信してから実際に接続を切断するまでの時間を指定できます（最短 10 秒、最長 180 秒）。

# 設定 Web ページについて

## 本製品の Web ページを表示する

本製品は HTTP プロトコルを搭載していますので、Web ブラウザーを利用して本製品の詳細な設定および設定内容の変更を行うことができます。また、リモートでの再起動、ステータスの表示などの便利な機能をご利用いただくことができます。

### 重要

- Web ブラウザーを利用する場合は、本製品の TCP/IP プロトコル設定が有効であり、IP アドレスが設定されている必要があります。
- 推奨する Web ブラウザーは下記表のとおりです。

Windows	Microsoft Internet Explorer 8 以降
	Firefox 3.0.0 以降
	Chrome 11.0 以降
Mac OS	Safari 4.0.0 以降

- 以下の説明では、Windows 7 環境で Internet Explorer 8/9 を使用した場合の画面を例にしています。ご利用になる環境や Web ブラウザーによって多少表示が異なる場合があります。


### ヒント

- 本製品の Web ページ機能は、HTTP 1.0 (RFC1945) /HTML 3.0 に準拠しています。
- 接続しているスキャナーの状態表示は 30 秒ごとに自動更新されます。

## 本製品の Web ページを表示する

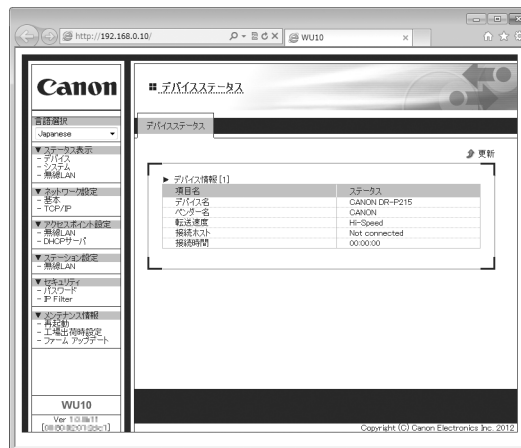
Web ページを表示するには、以下の 2 つの方法があります。

### スキャナー無線接続ユーティリティから表示する

スキャナー無線接続ユーティリティの操作ウィンドウで本製品をクリックしてから  をクリックします。本製品のプロパティが表示されるので、[スキャナーサーバー情報] をクリックします。



Web ブラウザーが起動して、本製品の Web ページが表示されます。



## 💡 ヒント

スキャナー無線接続ユーティリティの操作ウインドウで本製品を選択して右クリックし、表示されたメニューから [Web ページを表示する] を選択します。

### Web ブラウザーから直接表示する

Web ブラウザーのアドレスバーに本製品に設定された IP アドレスを入力し、ENTER キーを押します。

例: 192.168.0.10 と入力する (http://192.168.0.10/ と表示されます。)



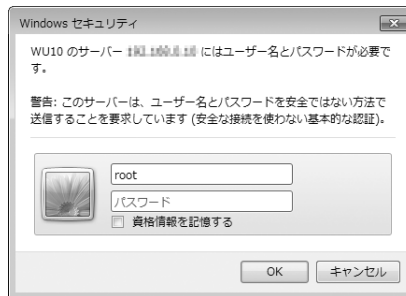
## 各 Web ページについて

Web ページ左側のメニューの各項目をクリックすると、以下のページを表示します。

ステータス表示	本製品の状態と本製品の動作状態を表示します。
ネットワーク設定	本製品のネットワーク設定を行います。
アクセスポイント設定	AP モード時の無線 LAN 設定を行います。
ステーション設定	ステーションモード時の無線 LAN 設定を行います。
セキュリティ	本製品のセキュリティ設定を行います。
メンテナンス情報	本製品の設定情報の初期化、再起動およびファームウェアのアップデートを行います。

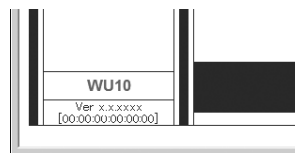
## ❗ 重要

本製品の設定を行う場合、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。下記画面が表示されたら、ユーザー名 (root) とパスワードを入力してから、[OK] をクリックしてログインしてください。(本製品のパスワードは、工場出荷時設定では設定されていません。)



## 💡 ヒント

- [言語選択] で Web ページの言語を切り替えることができます。
- Web ページ左下に本製品のファームウェアバージョンと Mac アドレスを表示します。



## 本製品のステータス表示

このページでは、[ステータス表示] のページについて説明しています。ステータス表示は本製品に接続している USB デバイスの状態と本製品の動作状態を表示します。

## デバイスステータス

Web ページ左側のメニューで [デバイス] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、本製品に接続している USB デバイスの状態を表示します。

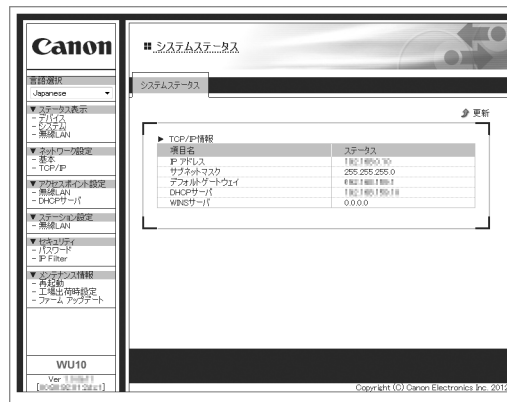


項目	内容
デバイス名	本製品に接続されているスキャナーのデバイス名を表示します。
ベンダー名	本製品に接続されているスキャナーのベンダー名を表示します。
転送速度	本製品のバス転送速度を表示します。(Hi-Speed / Full Speed / Low Speed)
接続ホスト	本製品を使用しているパソコン (ホスト) の IP アドレスを表示します。誰も使用していないときは『Not Connected』と表示されます。
接続時間	パソコンが本製品に接続してからの経過時間を表示します。

## システムステータス

Web ページ左側のメニューで [システム] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、本製品の動作状態を表示します。



項目	内容
IP アドレス	本製品で現在使用されている IP アドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品で現在使用されているサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	本製品で現在使用されているゲートウェイを表示します。
DHCP サーバ	本製品で現在使用されている DHCP サーバのアドレスを表示します。この項目はステーションモードでのみ表示されます。
WINS サーバ	本製品で現在使用されている WINS サーバのアドレスを表示します。

## 無線 LAN ステータス

Web ページ左側のメニューで [無線 LAN] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、本製品の無線の動作状態を表示します。



項目	内容
送信強度	現在の無線の送信強度をアンテナ画像で表示します。
カレント SSID	本製品で現在使用されている SSID を表示します。
カレントチャンネル	本製品で現在使用されているチャンネルを表示します。
送信レート	現在の送信レートを表示します。この項目はステーションモードでのみ表示されます。

## 本製品のネットワーク設定

このページでは、[ネットワーク設定] のページについて説明しています。

### 基本設定

Web ページ左側のメニューで [基本] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、本製品のホスト名と使用するときのネットワーク動作の種類を設定します。



### 【基本設定】

項目	設定内容	工場出荷設定
ホスト名	本製品のホスト名を設定します。 ここで設定した名称がスキャナー無線接続ユーティリティ、WINS などで使用されます。他の機器と重複しない名称を割り当ててください。	WU10-xxxxxx (xxxxxx は Mac アドレスの下 6 桁)
ネットワークモード	本製品のネットワークモードを表示します。	—

## TCP/IP 設定

Web ページ左側のメニューで [TCP/IP] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、本製品の IP アドレスを設定します。



[TCP/IP 設定]

項目	設定内容	工場出荷設定
DHCP	DHCP プロトコルの有効 ([ENABLE]) / 無効 ([DISABLE]) を設定します。IP アドレスを DHCP によって設定するためには、サブネットワーク内に DHCP サーバーが稼働していなければなりません。	ENABLE
IP アドレス	本製品の IP アドレスを設定します。DHCP が有効の場合は、DHCP で取得した IP アドレスが優先されます。設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた4つの10進数で「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	192.168.0.10

項目	設定内容	工場出荷設定
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを設定します。DHCP が有効の場合、DHCP で取得したサブネットマスクが優先されます。設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた4つの10進数で「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」を設定するとこの項目は無効になり、IP アドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	本製品のゲートウェイの IP アドレスを設定します。DHCP が有効の場合、DHCP で取得したデフォルトゲートウェイが優先されます。設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた4つの10進数で「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。ゲートウェイは本製品と同じサブネットワーク内に存在しなければなりません。「0.0.0.0」を設定するとこの項目は無効になります。	0.0.0.0

[WINS 設定]

項目	設定内容	工場出荷設定
WINS サーバ	WINS サーバーの IP アドレスを設定します。DHCP が有効の場合、DHCP で取得した WINS サーバーが優先されます。設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた4つの10進数で「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0

## アクセスポイント設定

このページでは、[アクセスポイント設定] のページについて説明しています。

### 無線 LAN 設定

[アクセスポイント設定] の [無線 LAN] をクリックすると、下図のページを表示します。

#### [無線 LAN 設定] タブ



#### [無線 LAN 基本設定]

項目	設定内容	工場出荷設定
SSID	本製品の SSID を設定します。 SSID は、無線 LAN を使用して通信するグループを識別するための ID です。無線 LAN 上で通信する機器は同じ SSID を設定します。半角英数字、-(ハイフン)、_(アンダースコア)を使用して、32 文字以内で入力します。	WU10-xxxxxx (xxxxxx は Mac アドレスの下 6 桁)
チャンネル帯域幅	無線 LAN で使用するチャンネルの帯域幅を設定します。チャンネル帯域幅は [20MHz]、[40MHz] から選択します。	40MHz

項目	設定内容	工場出荷設定
通信チャンネル	無線 LAN で使用するチャンネルを設定します。 チャンネルとは、分割した周波数帯域です。 無線 LAN では、複数の無線機器が同時に通信できるようにするために、周波数帯域を分割して利用します。 他の無線製品の電波と混信して通信が不安定になる場合は、使用するチャンネルを変更してください。1 ~ 13ch から選択します。	1
送信強度	無線 LAN と接続する際の送信強度を設定します。	High



項目	設定内容	工場出荷設定
ネットワーク 認証	<p>無線親機（アクセスポイント）と接続する際に使用する認証方式を設定します。強固なセキュリティを確保するために、WPA/WPA2 を使用することをお勧めします。IEEE 802.11n では、AES のみ使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Open（オープンシステム） 認証を行わず、すべてのアクセスを許可します。暗号化通信には WEP を使用します。</li> <li>• WPA PSK を使用してネットワーク認証を行います。通信の暗号化は TKIP/AES から選択します。暗号キーは共有キーを元にアクセスポイントと通信して作成されます。WEP キーの設定内容は使用しません。</li> <li>• WPA2 PSK を使用してネットワーク認証を行います。通信の暗号化は TKIP/AES から選択します。暗号キーは共有キーを元にアクセスポイントと通信して作成されます。WEP キーの設定内容は使用しません。</li> <li>• WPA MIX WPA1 および WPA2 のネットワーク認証を行うことができます。WPA2 に対応していないデバイスの場合は、WPA1 による認証を行います。WPA2 に対応しているデバイスの場合は、安全性の高い WPA2 による認証を行います。</li> </ul>	WPA2

#### [WPA/WPA2 設定]

[ネットワーク認証] を [Open] に設定している場合、この設定は表示されません。

項目	設定内容	工場出荷設定
暗号化方式	<p>WPA/WPA2 の認証方式で使用する暗号化方式を選択します。この暗号化方式は通信する相手機器（アクセスポイントなど）と同じ値を設定する必要があります。設定値は、下記の 2 種類から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TKIP</li> <li>• AES</li> </ul> <p>一般的には TKIP よりも AES のほうが強力な暗号化方式とされています。セキュリティ向上のために、AES 暗号化方式を使用して無線ネットワークを構築することをお勧めします。</p>	AES
共有キー	<p>暗号化方式で TKIP/AES を使用する際に共有キー(Pre-Shared Key)を設定します。共有キーとは暗号化キーを生成するためのキーワードで、「ネットワークキー」や「パスワード」といった表現で設定する無線 LAN 機器もあります。8～63 文字の半角英数字文字列で設定します。この共有キーは通信する相手機器（アクセスポイントなど）と同じ値を設定する必要があります。</p>	canonwu10

## DHCP サーバ

Web ページ左側のメニューで [DHCP サーバ] をクリックすると、下図のページを表示します。



項目	設定内容	工場出荷設定
DHCP サーバ機能	DHCP サーバ機能の有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。	ENABLE
開始IPアドレス	開始 IP アドレスを設定します。	192.168.0.11
終了IPアドレス	終了 IP アドレスを設定します。	192.168.0.254
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。	192.168.0.10
リース期間	DHCP サーバ機能によって取得したネットワーク設定の有効期間を設定します。	0 日 0 時間 0 分

## ステーション設定

このページでは、[ステーション設定] のページについて説明しています。

### 無線 LAN 設定

[ステーション設定] の [無線 LAN] をクリックすると、2 つのタブで構成されたページが表示されます。

#### [無線 LAN 設定] タブ



[無線 LAN 設定リスト]

項目	設定内容	工場出荷設定
無線 LAN 設定リスト	無線 LAN 設定を行うスキャナーを設定します。 本製品のホスト名を選択します。	WU10-xxxxxx (xxxxxx は Mac アドレスの下 6 桁)

[無線 LAN 基本設定]

項目	設定内容	工場出荷設定
SSID	本製品を接続する無線 LAN の SSID を設定します。 SSID は、無線 LAN を使用して通信するグループを識別するための ID です。無線 LAN 上で通信する機器は同じ SSID を設定します。 半角英数字、-(ハイフン)、_(アンダースコア) を使用して、32 文字以内で入力します。	WU10-xxxxxx (xxxxxx は Mac アドレスの下 6 桁)
送信強度	無線 LAN と接続する際の送信強度を設定します。	High

項目	設定内容	工場出荷設定
ネットワーク 認証	無線親機 (アクセスポイント) と接続する際に使用する認証方式を設定します。WPA/WPA2 を使用すると強固なセキュリティを確保できます。IEEE 802.11n では、AES のみ使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Open (オープンシステム) 認証を行わず、すべてのアクセスを許可します。暗号化通信には WEP を使用します。</li> <li>• Shared (共有キー) 暗号化に使用する WEP キーを認証キーとして使用し、同じキーを持つ機器にのみアクセスを許可します。暗号化通信には WEP を使用します。</li> <li>• WPA PSK を使用してネットワーク認証を行います。通信の暗号化は TKIP/AES から選択します。暗号キーは共有キーを元にアクセスポイントと通信して作成されます。WEP キーの設定内容は使用しません。</li> <li>• WPA2 PSK を使用してネットワーク認証を行います。通信の暗号化は TKIP/AES から選択します。暗号キーは共有キーを元にアクセスポイントと通信して作成されます。WEP キーの設定内容は使用しません。</li> </ul>	Open

**[WEP 設定]**

[ネットワーク認証] を [WPA] または [WPA2] に設定している場合、この設定は表示されません。

項目	設定内容	工場出荷設定
WEP	WEP 暗号化機能の有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。 WEP 暗号化を使用すると、[WEP キー (1 ~ 4)] および [キーインデックス] に設定された情報により、無線 LAN で通信するデータが暗号化されます。暗号化を使用しない場合、無線 LAN で通信するデータは暗号化されずに、そのまま送信されます。セキュリティを向上させるため、暗号化設定を行って無線ネットワークを構築することをお勧めします。 [ネットワーク認証] を [Shared] に設定している場合、この設定項目は表示されません。	OFF
キーインデックス	WEP 暗号化を使用する際に、暗号化に使用する WEP キーの番号 (1 ~ 4) を設定します。 このキーインデックスは通信する相手機器 (アクセスポイントなど) と同じ値を設定する必要があります。	1

項目	設定内容	工場出荷設定												
WEP キー 1 ~ 4	WEP 暗号化に使用する暗号化キー (WEP キー) を設定します。 この WEP キーは最大 4 つまで設定することができ、通信する相手機器 (アクセスポイントなど) と同じ値を設定する必要があります。 WEP キーの入力方式は「16 進数表記」と「英数字表記」があります。 一般的には、半角英数字文字列を「英数字表記」で設定します。 キーサイズが 64bit の場合は 5 文字の値、128bit の場合は 13 文字の値を入力します。 「16 進数表記」の場合は、数字の「0 ~ 9」と英字の「A ~ F」を組み合わせた値を設定します。キーサイズ (キーの長さ) が 64bit の場合は 10 桁の値、128bit の場合は 26 桁の値を入力します。 WEP キー入力範囲 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="3">WEP キーサイズ</th> </tr> <tr> <th></th> <th>64bit</th> <th>128bit</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16 進数表記</td> <td>10 文字 (桁)</td> <td>26 文字 (桁)</td> </tr> <tr> <td>英数字表記</td> <td>5 文字</td> <td>13 文字</td> </tr> </tbody> </table>	WEP キーサイズ				64bit	128bit	16 進数表記	10 文字 (桁)	26 文字 (桁)	英数字表記	5 文字	13 文字	なし
WEP キーサイズ														
	64bit	128bit												
16 進数表記	10 文字 (桁)	26 文字 (桁)												
英数字表記	5 文字	13 文字												

**[WPA/WPA2 設定]**

[ネットワーク認証] を [Open] または [Shared] に設定している場合、この設定は表示されません。

この設定項目については、「アクセスポイント設定」の「[WPA/WPA2 設定]」(→ P.33) を参照してください。

## [WPS 設定] タブ



## [WPS 設定]

項目	設定内容	工場出荷設定
WPS 設定	WPS 設定の有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。	ENABLE

## [WPS 実行]

項目	設定内容	工場出荷設定
本製品の PIN コード	アクセスポイントに入力する WPS PIN コードが表示されます。 この PIN コードは、[自動生成] ボタンをクリックすることでランダムに変更できます。	—
WPS アクセスポイント SSID	WPS PIN モードで接続する無線親機 (アクセスポイント) の SSID を入力します。	WPS_AP_SSID

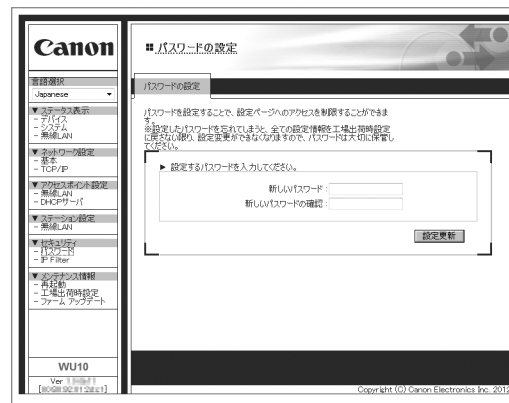
## 本製品のセキュリティ設定

このページでは、セキュリティ設定のページについて説明しています。

## パスワードの設定

Web ページ左側のメニューで [パスワード] をクリックすると、下図のページが表示されます。

このページでは、Web ブラウザーで設定を行う際の認証パスワードを設定します。



項目	設定内容	工場出荷設定
新しいパスワード	本製品の管理パスワードを ASCII 文字列 (7 文字以内) で設定します。 このパスワードは Web ブラウザーで設定を行う際の認証パスワードとして使用します。	なし
新しいパスワードの確認	入力パスワードの確認に使用します。	なし

## IP Filter 設定

Web ページ左側のメニューで [IP Filter] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、登録した IP アドレスの範囲からの本製品への通信を、許可 / 拒否することができます。



### [IP Filter 1 ~ 4 の設定]

項目	設定内容	工場出荷設定
IPアドレス/ アドレスマス ク	<p>IP アドレスとアドレスマスクにより、IP Filter の範囲を設定します。 フィルタしたい IP アドレスの範囲は 4 組まで設定できます。設定が不要な場合は、IP アドレスとアドレスマスクを「0.0.0.0」にします。</p> <p>設定例) IP アドレス/アドレスマスク： 設定範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0.0.0.0/0.0.0.0 : 未設定</li> <li>• 192.168.0.0/255.255.255.0 : 192.168.0.0 ~ 192.168.0.255</li> <li>• 192.168.0.1/ 255.255.255.255 : 192.168.0.1 のみ</li> </ul>	0.0.0.0

### [アクセス制限モードの設定]

項目	設定内容	工場出荷設定
フィルタ動作 モード	<p>IP フィルタの動作を設定します。 本製品にアクセスするデバイスを、IP Filter 1 ~ 4 で指定した IP アドレスの範囲で制限できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ALLOW 設定した IP アドレス範囲からの本製品へのアクセスを許可します。</li> <li>• DENY 設定した IP アドレス範囲からの本製品へのアクセスを禁止します。</li> </ul>	DENY

## 本製品のメンテナンス情報

このページでは、メンテナンス情報のページについて説明しています。

メンテナンス情報は、本製品の設定情報の初期化、再起動およびファームウェアのアップデートを行います。

### 再起動

Web ページ左側のメニューで [再起動] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、本製品の再起動を行います。[はい] ボタンをクリックすると、本製品を再起動します。



## 工場出荷時設定

Web ページ左側のメニューで [工場出荷時設定] をクリックすると、下図のページを表示します。

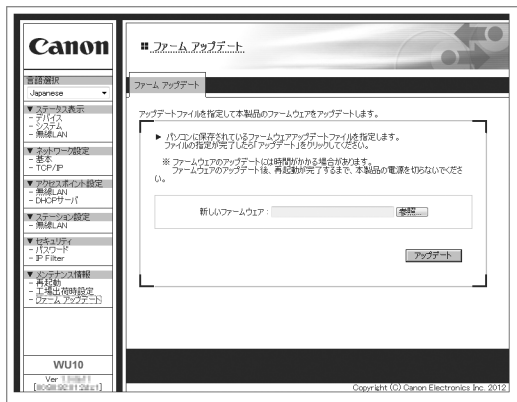
このページでは、本製品の設定情報の初期化を行います。[はい] ボタンをクリックすると、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻して、本製品を再起動します。



## ファームアップデート

Web ページ左側のメニューで [ファームアップデート] をクリックすると、下図のページを表示します。

このページでは、本製品のファームウェアのアップデートを行います。更新するファームウェアファイル (BINARY 形式) のパスを指定して、[アップデート] ボタンをクリックします。



ファームウェアの入手方法については、弊社サポートページを参照してください。

<http://cweb.canon.jp/manual/dr/index.html>

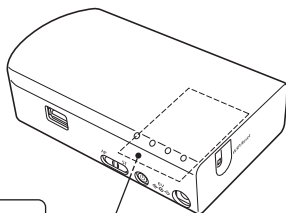


# トラブルシューティング

## ヒント

使用している無線親機（アクセスポイント）の取扱説明書もあわせて参照してください。

- Q1. スキャン中に Wi-Fi 通信が途切れた後、再スキャンしても正常にスキャンできない。
- A1. スキャン画像をスキャナーからコンピューターに転送しているときに Wi-Fi 通信が途切れた場合、コンピューターに不要なデータ（転送途中の不完全なスキャンデータ）が残っていることがあります。スキャンに使用したアプリケーションで、途中までスキャンしたデータを削除してから再スキャンしてください。
- Q2. 無線親機（アクセスポイント）に接続できない。
- A2. ● 無線親機（アクセスポイント）が正常に起動しているか確認してください。  
● モードスイッチの位置が「ST」になっていることを確認してください。  
● 本機と無線親機（アクセスポイント）の電源を入れ直し、再度 Wi-Fi 接続をしてください。  
● コードレス電話機や電子レンジ、冷蔵庫などからの電波と干渉することがあります。これらの機器から離れた場所で使用してください。  
● 無線親機（アクセスポイント）のステルス機能を有効にしていると、Wi-Fi 接続の設定時に無線親機（アクセスポイント）を検出できません。ステルス機能を無効にするか、手動での設定時に無線親機（アクセスポイント）の SSID を手動で正確に入力してください。  
● 無線親機（アクセスポイント）の MAC アドレスフィルタリングを有効にしているときは、本機の MAC アドレスを登録する必要があります。本機の MAC アドレスは、底面のラベルに記載されています。



MAC アドレス

- Q3. 「かんたん無線スタート」または「AOSS」で接続できない。
- A3. 本機は「かんたん無線スタート」と「AOSS」のどちらにも未対応です。無線親機（アクセスポイント）に WPS 機能があれば、WPS 機能を使用して接続できます。WPS に対応していないときは手動で設定して接続してください（P.18）。
- Q4. スキャナーの電源が自動的に切れ、Wi-Fi 接続ができなくなった。
- A4. スキャナーの自動電源オフ機能が有効になっていると、Wi-Fi 接続中かどうにかかわらず一定時間経過後にスキャナーの電源が自動的に切れます。スキャナーの電源を入れ直し、必要に応じてスキャナーの取扱説明書を参照してスキャナーの自動電源オフ設定を無効にしてください。
- Q5. 工場出荷時の設定に戻したい。
- A5. WPS ボタンを押したまま本機の電源を入れると、本機の初期化が開始します。初期化中は、CONNECTION ランプが赤色で点灯します。CONNECTION ランプが緑色に点灯したら、初期化完了です。

# 仕様

## 本体

形式	バッテリー内蔵スキャナーデバイスサーバー
スキャナー接続用インターフェイス	USB 2.0 Hi-Speed (A タイプ)
無線 LAN 基本仕様	
無線準拠規格	IEEE802.11b/g/n (2.4GHz のみ対応)
周波数	2.4GHz 帯
伝送方式	IEEE802.11b : DS-SS 方式 IEEE802.11g : OFDM 方式 IEEE802.11n : MIMO-OFDM 方式
データレート*	IEEE802.11b : 最大 11Mbps IEEE802.11g : 最大 54Mbps IEEE802.11n : 最大 300Mbps
セキュリティ	WPA-PSK (TKIP/AES)、WPA2-PSK (TKIP/AES)、WEP (64/128 bit)
簡易設定	WPS
接続モード	ステーションモード、アクセスポイントモード
外形寸法	幅 125 mm × 奥行 71 mm × 高さ 31.7 mm
質量	約 125 g (AC アダプターおよびバッテリーを除く)
電源	AC アダプターまたはリチウムイオンバッテリー
消費電力	最大 13.2W、電源オフ時 0.5W
使用環境	温度 : 10° ~ 32.5° 湿度 : 20% (RH) ~ 80% (RH)
バッテリー充電時間	約 2.5 時間 (常温、電源オフ時)
対応機種	DR-150、DR-P215

\* 環境により異なります。

## AC アダプター

型番	MG1-4737
入力	AC100 ~ 240V、50/60Hz、0.4A
出力	DC6V、2.0A
質量	約 170 g (電源コード除く)

## 消耗品

- バッテリー  
LP-E10

## Wi-Fi 接続時のスキャン速度

(スキャン条件 : 200dpi、A4/LTR、JPEG)

### DR-P215

#### • Windows

ネットワークモード		AP モード	ステーションモード
グレースケール	片面	12 枚 / 分	12 枚 / 分
	両面	14 面 / 分	14 面 / 分
24ビットカラー	片面	10 枚 / 分	6 枚 / 分
	両面	8 面 / 分	6 面 / 分

#### • Mac OS X

ネットワークモード		AP モード	ステーションモード
グレースケール	片面	12 枚 / 分	12 枚 / 分
	両面	14 面 / 分	14 面 / 分
24ビットカラー	片面	7 枚 / 分	5 枚 / 分
	両面	7 面 / 分	5 面 / 分

### DR-150

#### • Windows

ネットワークモード		AP モード	ステーションモード
グレースケール	片面	12 枚 / 分	12 枚 / 分
	両面	14 面 / 分	14 面 / 分
24ビットカラー	片面	10 枚 / 分	4 枚 / 分
	両面	10 面 / 分	6 面 / 分

#### • Mac OS X

ネットワークモード		AP モード	ステーションモード
グレースケール	片面	12 枚 / 分	12 枚 / 分
	両面	14 面 / 分	14 面 / 分
24ビットカラー	片面	7 枚 / 分	5 枚 / 分
	両面	7 面 / 分	5 面 / 分

## DR-P208

### • Windows

ネットワークモード		APモード	ステーションモード
グレースケール	片面	8枚/分	8枚/分
	両面	16面/分	16面/分
24ビットカラー	片面	8枚/分	8枚/分
	両面	10面/分	7面/分

### • Mac OS X

ネットワークモード		APモード	ステーションモード
グレースケール	片面	8枚/分	8枚/分
	両面	16面/分	16面/分
24ビットカラー	片面	8枚/分	6枚/分
	両面	10面/分	7面/分

上記の数値は参考値です。使用環境によっては、上記と異なるスキャン速度になることがあります。

## ソフトウェアライセンス情報

本製品の一部には、GNU GENERAL PUBLIC LICENSE(GPL)、GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE(LGPL) あるいは独自のライセンスで使用許諾されたソフトウェアを含みます。対象となるソフトウェアに関しては、下記表を参照して下さい。各ライセンスの原文は、本文書に Exhibit A～D として記載します。

当該ソフトウェアは、『あるがまま』の状態商品性および特定の目的への適合性の黙示的保証を含め、明示たると黙示たるとを問わずいかなる保証もなく提供されるものとしします。当該ソフトウェアの品質、機能およびパフォーマンス、その他についてのあらゆる危険性はお客様の責任および負担となります。

キャノン電子、その子会社、関連会社、それらの販売代理店または販売店、またはキャノン電子のライセンサーのいずれも、当該ソフトウェアの使用または使用不能から生ずるいかなる損害に対しても、一切の責任を負わないものとします。例え、キャノン電子、その子会社、関連会社、それらの販売代理店または販売店、またはキャノン電子のライセンサーがかかる損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。(本契約に言う「いかなる損害」とは、逸失利益およびその他の派生的または付随的な損害を含み、またこれらに限定されない全ての損害をいいます。)

適用法において認められる限りにおいて、キャノン電子、その子会社、関連会社、それらの販売代理店または販売店、またはキャノン電子のライセンサーのいずれも、当該ソフトウェアまたはその使用に起因または関連して生じたいかなる紛争について、一切責任を負わないものとします。

Software modules	License
busybox, ethtool, iptables, Linux kernel, wireless_tools, uboot	GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2(Exhibit A)
libusb, uClibc	GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1(Exhibit B)
libupnp	(Exhibit C)
thttpd	(Exhibit D)

お客様は、本製品の最終出荷日より起算し3年以内であれば、上記記載の GPL 及び LGPL でライセンスされるソフトウェアのソースコードを弊社より入手することができます。ソースコードの入手を希望されるお客様は、<sup>oss@canon-elec.co.jp</sup>宛に電子メールを送ってください。

弊社より適切なソースコードを送付するために、下記の項目についてお知らせください。

- (1) 製品名
- (2) 製品シリアル番号
- (3) 製品ソフトウェアのバージョン

お客様の個人情報は、当該ご依頼への対応に必要な範囲でのみ利用し、適切な安全対策のもとに漏洩等の防止に努めます。

詳細に関しては、弊社の「個人情報保護方針」(<http://www.canon-elec.co.jp/policy/index.html>) および「個人情報の取り扱いについて」([http://www.canon-elec.co.jp/policy/privacy\\_policy.html](http://www.canon-elec.co.jp/policy/privacy_policy.html)) をご覧ください。

## Exhibit A

### GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

#### Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE  
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

#### NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

#### END OF TERMS AND CONDITIONS

#### How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.> Copyright (C)
<year> <name of author>
```

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989  
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

## Exhibit B

### GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

#### Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

#### GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.



In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

#### NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

#### END OF TERMS AND CONDITIONS

#### How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>
```

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

```
<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice
```

That's all there is to it!

#### Exhibit C

Copyright (c) 2000-2003 Intel Corporation  
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* Neither name of Intel Corporation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL INTEL OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

#### Exhibit D

```
/* thttpd.c - tiny/turbo/throttling HTTP server
**
** Copyright 1995,1998,1999,2000,2001 by Jef Poskanzer <jef@mail.acme.com>.
** All rights reserved.
**
** Redistribution and use in source and binary forms, with or without
** modification, are permitted provided that the following conditions
** are met:
** 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
** notice, this list of conditions and the following disclaimer.
** 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
** notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
** documentation and/or other materials provided with the distribution.
**
** THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND
** ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
** IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
** PURPOSE
** ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE
** LIABLE
```

\*\* FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR  
CONSEQUENTIAL  
\*\* DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE  
GOODS  
\*\* OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)  
\*\* HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,  
STRICT  
\*\* LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY  
WAY  
\*\* OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF  
\*\* SUCH DAMAGE.  
\*/

## 保証とアフターサービス

- この商品には保証書がついています  
保証書は、お買い上げ販売店でお渡しします。お買い上げ日、販売店名などの記入をお確かめの上、内容をよくお読みになり大切に保管してください。
- 保証期間  
保証期間はお買い上げ日より1年間です。
- 修理サービスのご相談  
修理サービスのご相談は、お買い上げの販売店または下記の修理受付窓口へご相談ください。
- 修理を依頼される前に  
41ページの「トラブルシューティング」にそって故障かどうかお確かめください。それでも直らない場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。
- 修理を依頼されるときに、ご連絡いただきたいこと
  - お客様のお名前
  - ご住所、お電話番号
  - 商品の品番
  - 故障の内容（できるだけ詳しく）
- 本製品を修理のために送付するときのお願い  
本製品の修理を依頼するときは、下記の修理受付窓口に送付の上、指定されたサービスセンターに本製品をお送りいただく必要があります。本製品の送付には、製品が入っていた梱包箱をご利用ください。また、梱包箱に入れるときに、本製品を梱包材でしっかり固定していただくようお願いいたします。
- 補修用性能部品について  
保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後5年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

### 修理受付窓口

保証内容や修理についてのお問い合わせは、お買い上げの販売店または、下記のキヤノンサービスセンターへお問い合わせください。

お願い：本機のお取り扱い方法のお問い合わせは、必ず販売店または「お客様相談センター」あてにご連絡ください。

受付時間：9:00～17:30（サービスセンター上野・サービスセンター新宿は18:00まで受付）

休業日：土・日・祝（サービスセンター上野・サービスセンター新宿は日・祝休業）

### 北海道地区

※サービスセンター札幌 TEL：011-207-2411  
〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西4-1-1 日本生命札幌ビル 高層棟1F

### 東北地区

※サービスセンター仙台 TEL：022-217-3210  
〒980-8560 宮城県仙台市青葉区国分町3-6-1 仙台パークビルディング1F

### 関東・信越地区

サービスセンター上野 TEL：03-3837-2961  
〒110-0005 東京都台東区上野1-1-12 信井ビル1F  
サービスセンター新宿 TEL：03-3348-4725  
〒163-0401 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1F  
サービスセンター横浜 TEL：045-453-2247  
〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区金港町2-6 横浜ブラザビル9F  
東日本修理センター TEL：043-211-9032  
〒261-8711 千葉県千葉市美浜区中瀬1-7-2 キヤノンMJ幕張事業所1F  
※キヤノンテクニカルセンター（または郵送・宅配のみ） TEL：0297-35-5000  
〒3060605 茨城県坂東市馬立1234 F7 棟3F

### 中部・北陸地区

※サービスセンター名古屋 TEL：052-209-6000  
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ2F

### 近畿地区

※サービスセンター大阪中之島 TEL：06-6459-2565  
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島6-1-21 キヤノンビジネスサポート中之島ビル2F

### 中国・四国地区

サービスセンター広島 TEL：082-240-6712  
〒730-0051 広島県広島市中区大手町3-7-5 広島パークビルディング1F

### 九州地区

※サービスセンター福岡 TEL：092-281-1400  
〒812-0024 福岡県福岡市博多区綱場町4-1 福岡RDビル1F

※印のQRセンター、サービスセンターでは、郵送・宅配による修理品もお取り扱いを致しております。

2012年1月16日現在

上記の内容は、都合により予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。

## サービス&サポートのご案内

### ■ お客様相談センター

取扱い方法および修理に関するご相談は、お買い上げ頂いた販売店または下記の窓口にご相談ください。

お客様相談センター  
全国共通電話番号



050-555-90072

受付時間：＜平日＞ 9:00～12:00 / 13:00～17:00

（土日祝日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます。）

- 上記番号は 050 から始まる IP 電話（株式会社エヌ・ティ・ティエムイー（NTT-ME）の XePhion Call Direct）を利用しています。NTT の固定電話（一般回線）から地域・時間帯にかかわらず同一通話料金（10.4 円 / 3 分）でご利用になれます。
  - 携帯電話・PHS をご利用の場合、ご契約先携帯電話事業者の定める通話料金となります。詳しくはご契約の携帯電話事業者にお問い合わせください。尚、一部の PHS からはご利用いただけませんのでご了承ください。
  - お客さまが 050 から始まる IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。IP 電話からのご利用は、IP 電話事業者間の接続状況によります。NTT-ME の XePhion Call Direct の上記番号との通話（接続）可否については、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。IP 電話からつながらない場合の事象（話中音、アナウンス、ブザー音など）はプロバイダーによって異なります。また、IP 電話の相互通話であっても上記番号との通話料金はプロバイダーによって異なります。詳しくはご契約のプロバイダーにお問い合わせください。
  - 上記番号におかけになってもつながらない場合は、NTT の固定電話（一般回線）からおかけいただくか、043-211-9156 におかけくださいますようお願いいたします。
  - お客様相談センターの詳細につきましてはキヤノンホームページ（<http://cweb.canon.jp/e-support/rc/>）をご参照ください。
- ### ■ 消耗品の入手方法
- 消耗品はお買い上げ頂いた販売店、お近くのキヤノン製品取扱店およびキヤノンマーケティングジャパン（株）販売窓口にてご購入ください。尚、ご不明な場合はお客様相談センターにご相談ください。
- キヤノンホームページ <http://canon.jp/>
- <http://canon.jp/support> では、製品情報、最新ドライバーのダウンロード、QA 検索などの情報が掲載されています。是非ご利用ください。
  - ホームページのレイアウトは、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
  - 通信料はおお客様のご負担になります。

### 保守サービスのご案内

#### ■ ご購入製品をいつまでもベストの状態でご使用いただくために

このたびはドキュメントスキャナーをご購入いただき誠にありがとうございます。さて、毎日ご愛用いただくドキュメントスキャナーの無償修理保証期間経過後の保守サービスとして「キヤノン保守契約制度」を用意しています。当制度はキヤノン製品を、いつも最高の状態で快適に、ご使用いただけますように充実した内容となっており、キヤノン認定の「サービスエンジニア」が責任をもって機能の維持・管理等、万全の処置を行ないます。お客様と、キヤノンをしっかりとつなぐ保守サービスで、キヤノン製品を末永くご愛用賜りますようお願い申し上げます。

### キヤノン保守契約制度とは

ご購入後、定められた無償修理保証期間中に万一発生したトラブルは無償でサービスを実施します。保守契約制度とは、この無償修理保証期間の経過後の保守サービスを所定の料金で実施するサービスです。（製品により無償修理保証期間が異なります。また一部無償修理保証期間を設けていない製品もあります。）

#### ■ 精密機器だからこそ保守契約が必要です

ご購入いただきました機器は精密機器です。万一、思いがけないトラブルが発生した場合、時間的なロスだけでなく、予期せぬ出費が発生します。そこで、トラブルが起こってからではなく、事前に一定の料金をお支払いいただくことで、ご愛用の機器の修理に備えるのがキヤノンの保守契約制度です。

### キヤノン保守契約制度のメリット

#### ■ 都度の修理料金は不要

保守契約料金には、訪問料、技術料、部品代が含まれています。万一のトラブル時も予期せぬ出費が発生することがありません。

#### ■ 保守点検の実施

お客様のご要望により、機器の保守点検を追加できます。（別途、有料となります。）

- 天災、火災、第三者の改造等に起因するトラブルは除きます。
- 消耗品およびキヤノン指定の部品は対象外となります。

#### ■ 購入時契約のおすすめ

ご愛用品を安心してお使いいただく為、保守契約に加入をお勧めいたします。また、ご購入時に加入いただきますと、手続きなどの手間は一度ですみ便利です。

キヤノン保守契約に関するお申し込み、お問い合わせはお買い上げの販売店もしくはキヤノンマーケティングジャパン（株）までお願いします。

## ■ 電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

## ■ ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成しましたが、運用した結果の影響につきましては、前項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

**Canon**

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6 CANON **S**TOWER